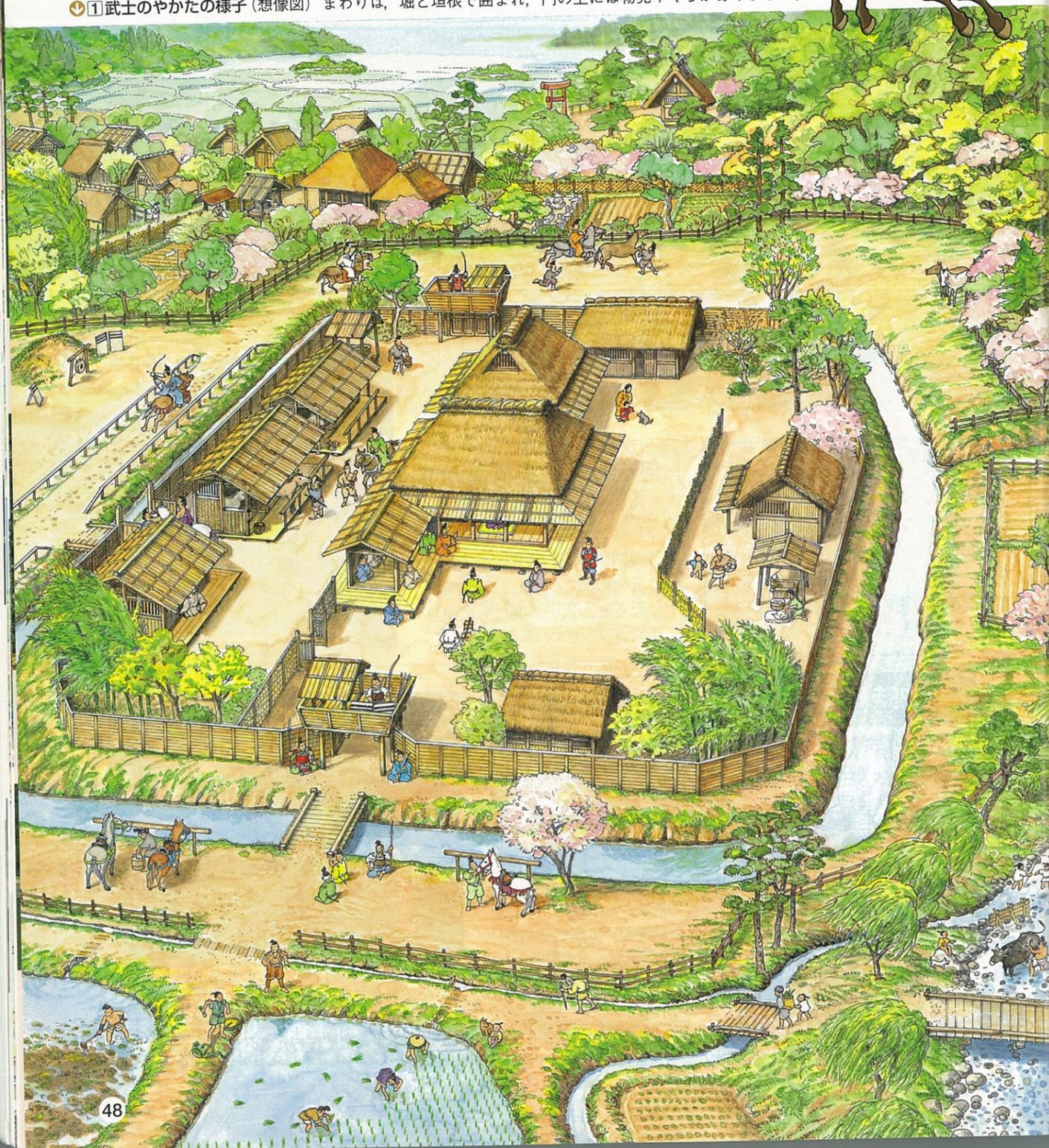


4 武士の世の中へ

武士と貴族のちがいは、どこにあるのかな。



① 武士のやかたの様子(想像図) まわりは、堀と垣根で囲まれ、門の上には物見やぐらがありました。



つかむ

武士は、どのような暮らしをしていたのか、どのような願いをもっていたのかについて話し合い、学習問題をつくりましょう。

武士の登場と武士の暮らし 貴族が都ではなやかな生活をしていたころ、地方の有力な農民は、新たに田畑を開いて自分の領地としました。また、都から地方に派遣された役人の中には、その立場を利用して富をたくわえる者もいました。これらの豪族は、領地を守るために武芸にはげみ、武士となりました。

10 地方の武士は、自分の領地が見わたせる場所にやかたを建て、一族や家来たちも近くに住んでいたそうです。

領地を守るために、武器の手入れや武芸の訓練、馬の世話などを行い、常に戦いに備えていたんだね。

15 武士が登場したことで、世の中は、どのように変わっていったのかな。

学習問題

武士の登場によって世の中は、どのように変わり、武士は、どのような政治を行っていったのでしょうか。

これから学習する時代



② 武器の手入れ 武士にとって、武器の手入れは欠かせないものでした。



源氏と武士の結びつき

朝廷の命令で地方の争いを平定することは、武士の大切な役割の一つでした。11世紀後半に東北地方で起きた争いでは、源義家が大きな働きをしましたが、豪族の内部争いに義家が勝手にかかわったものとされ、朝廷から恩賞は出ませんでした。そこで、義家は、ともに戦った武士たちに自分の財産を分けあたえました。そのことが、武士のかしらとしての義家の信用を高め、源氏をしたう勢力が東国(東日本)に広がるきっかけになりました。

ことは

武士 武芸をもって戦うことを職業とし、朝廷や貴族に仕え、合戦や警備などにあたりました。やがて、地方の反乱や都の権力争いの中で勢力をのばし、この後700年ほど続く武士の世の中を築き始めました。

かんまつ 巻末年表の1150~1350年ごろを見て、大まかな流れをつかみましょう。



① 武士の戦い(平治の乱) 平氏は、この戦いで源氏を破り、勢力を強めました。



② 平清盛の年表

年	年令	主なできごと
1118	1才	生まれる
1156	39	後白河天皇の武士として戦う(保元の乱)
1159	42	源頼朝の父を破る(平治の乱)
1167	50	太政大臣になる
1168	51	出家する
1172	55	むすめを天皇のきさきにする このころ平氏一族が朝廷の役職の多くをしめる
1179	62	このころ中国との貿易を進める
1180	63	孫が天皇になる(安徳天皇)
1181	64	死去

③ 平清盛 武士として初めて太政大臣の地位につき、中国(宋)との貿易を進めるなど、政治の面においても力を発揮しました。

⑥ 源義経 東国の武士は、馬に乗った戦いが得意でした。平泉(岩手県)で少年時代を過ごし、馬を使った戦い方をよく知っていた義経は、東国武士の騎馬団をうまく使い、平氏との戦いを進めたといわれています。

④ 源頼朝の年表

年	年令	主なできごと
1147	1才	生まれる
1159	13	平氏との戦いに敗れる(平治の乱)
1160	14	伊豆へ流される
1180	34	平氏をたおすために兵をあげる
1185	39	壇ノ浦で平氏をほろぼす 守護・地頭を置く
1188	42	義経をうつことを命じる
1192	46	征夷大將軍になる
1199	53	死去

⑤ 源頼朝 源氏のかしらとして、東国の武士たちをよくとりまとめました。源平合戦では、鎌倉にいて、戦況を見守りました。



⑧ 源氏の軍の進路 源氏が平氏を西へ西へと追いつめています。

⑨ 一ノ谷(兵庫県)の戦い(1184年) 平氏軍は、急ながけの下に陣をしき、守りを固めました。一方、義経は、陣地の上のがけを鹿が通ることを聞いて、がけの上からの奇襲攻撃を行いました。おどろいた平氏軍は、船で海へにげしました。



⑩ 屋島の戦い(1185年) 屋島(香川県)へにげこんだ平氏軍に対して、義経は、暴風雨に乗じて、通常よりも短い時間で一気に四国にわたったといわれています。この戦いにも敗れた平氏は、さらに西へとにげました。

⑪ 壇ノ浦の戦い(1185年) 戦いの当初は、潮の流れに乗った平氏軍が優勢でしたが、潮の流れが変わると形勢も逆転し、源氏軍が優勢になりました。追いつめられた平氏の武士たちは、次々に海に身を投げて、平氏は、ほろびました。



調べる

武士はどのようにして勢力をのぼし、源氏と平氏の争いは、どのような結果になったのでしょうか。



⑦ 厳島神社(広島県廿日市市, 世界文化遺産, 国宝) 平清盛は厳島神社を平氏の守り神としてまつり、海上交通の安全をいのりました。

武士の政治の始まりと源平合戦 武士は一族のかしらを中心に武士団をつくりました。特に勢いが強かったのは源氏と平氏で、朝廷の命令で地方の反乱をしずめながら、源氏は東国(東日本)に、平氏は西国(西日本)に勢力をのぼしました。

やがて源氏と平氏は、朝廷や貴族の政治の実権をめぐる争いに巻きこまれ、たがいに入り乱れて戦いました(保元の乱, 平治の乱)。その結果、平清盛を中心とした平氏が、貴族の藤原氏にかわって政治を行うようになりました。平氏一族が朝廷の中で強い力を持ち、政治を思うままに動かすようになったため、しだいに貴族やほかの武士

たちの間で不満が高まっていきました。

平治の乱に敗れて伊豆(静岡県)に流されていた源頼朝は、34才のとき、伊豆の豪族の北条氏や東国の武士たちとともに、平氏をたおそうと兵をあげました。領地を認めてくれる新しいかしら

を求めていた武士たちが、次々に集まりました。頼朝の弟の源義経たちに率いられた源氏軍は、平氏との戦いに次々と勝ち、平氏を西国に追いつめ、ついに壇ノ浦(山口県)でほろぼしました。

1192年、頼朝は武士のかしらとして朝廷から征夷大將軍に任じられました。頼朝が鎌倉(神奈川県)に開いた政府を鎌倉幕府といひます。

まなび方コーナー

伝記を使って調べる

源義経を調べる

- 【図書館などで義経の伝記を探す】
- わからない場合は、図書館の司書の人にたずねる。
- 【調べたいことについて伝記から読み取る】
- どんな人物だったかを表すエピソード。
 - どのような業績を残したのか。
 - 義経が活やくした時代の様子。
 - 義経がどのような思いをもっていたか。

ことば

征夷大將軍 鎌倉幕府を開いた源頼朝が任命された後は、武士をまとめていく最高の地位として引きつがれていきました。この後の武士の世の中では、將軍とは征夷大將軍のことを指すようになりました。



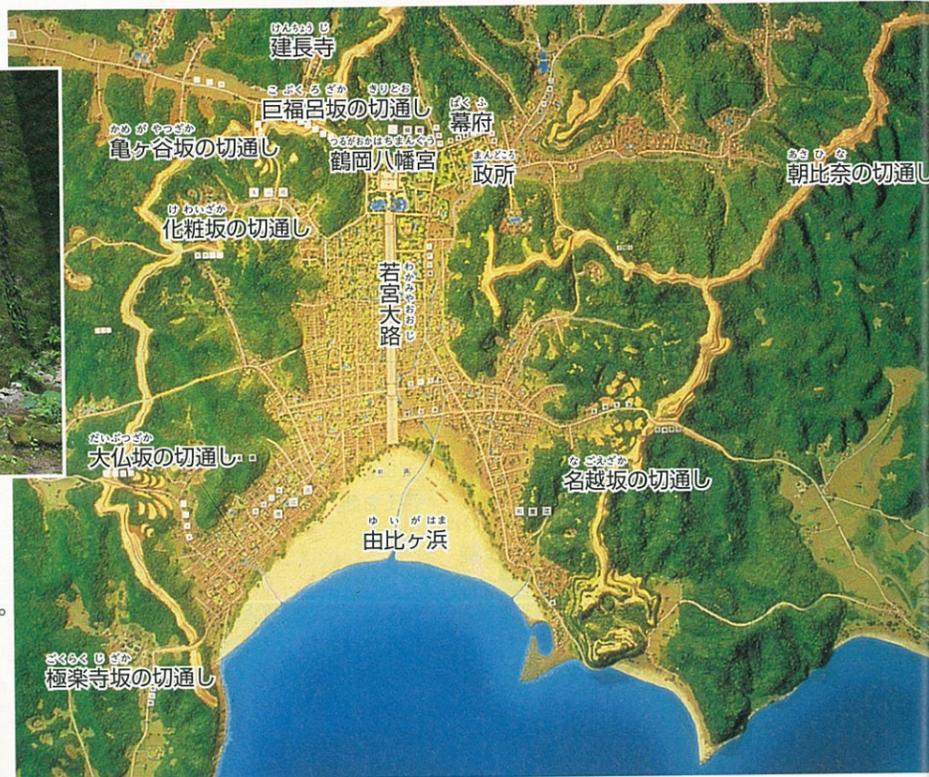
- ① 今も残る切通しの跡 (朝比奈の切通し)
- ② 鎌倉と幕府の位置 (復元模型) まわりを山で囲まれています。

調べる

頼朝は、どのようにして武士たちを従えていったのでしょうか。



③ 鎌倉への道 関東の各地に残っている鎌倉街道は、武士たちが、鎌倉と自分たちの領地を行き来した道のなごりです。鎌倉は、山を切り開いてつくられた切通しというせまい道で鎌倉街道と結ばれていました。



頼朝が東国を治める こうきさんたちは、頼朝がどのようにして武士を従えていったかを、図書館の本などを使って調べました。

- 「頼朝は、家来になった武士たちに、先祖からの領地の所有を認めました。」
- 「また、手がらを立てた武士には、新しい領地をあたえました。」

このような頼朝の「ご恩」に対して、武士たちは「奉公」をちかい、戦いが起これば、「いざ鎌倉」とかけつけ、幕府のために戦いました。また、戦いのないときには、鎌倉や京都を守る役を務めました。頼朝と武士たちのこのような結びつきを、ご恩と奉公の関係とよびます。

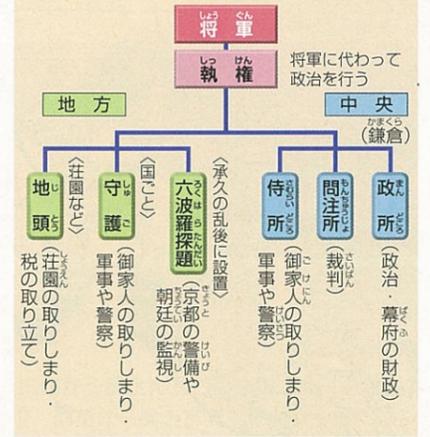
⑤ 鎌倉幕府のしくみ



頼朝のご恩と政子のうったえ — 承久の乱 —

朝廷から、幕府をたおせという命令が鎌倉武士たちに伝えられました。頼朝の妻・政子は、おどろいて集まってきた武士たちに、頼朝のご恩を説きました。「頼朝どのが平氏をほろぼして幕府を開いてから、そのご恩は、山よりも高く、海よりも深いほどです。ご恩に感じて名誉を大切にできる武士ならば、よからぬ者をうちとり、幕府を守ってくれるにちがいありません。」

④ 北条政子 このように頼朝のご恩を説いて、武士の団結をうたえました。武士たちは、奉公をちかい、京都にせめ上りました。



ご恩と奉公



幕府は、武士の大切な領地を保護し、ときには新しくあたえました。武士は、幕府のために領地に見合ったさまざまな働きをしました。領地を中心に幕府と武士の関係は、成り立っていたのです。

源氏の将軍は3代で絶え、その後、幕府の政治は、将軍を助ける執権の職についた北条氏に引きつがれました。

一方、東国に幕府が開かれてからも西国を中心に勢力を保っていた朝廷は、北条氏が政治を行うようになると、幕府をたおす命令を全国に出しました。

しかし、幕府のもとに集まった武士たちは、たちまち朝廷の軍を打ち破りました(承久の乱)。この結果、幕府の力は、西国にまでおよぶようになりました。この後、武士の裁判の基準となる法律(御成敗式目)がつくられ、北条氏を中心とした幕府の支配力は、いっそう強くなっていきました。

「鉢の木」の物語



ある雪の夜、身分をかくして旅に出た前の執権北条時頼が、一軒のそまつな家にとまりました。家の主人は、鉢植えの木を切って燃やしてもてなし、次のように話しました。「自分は貧しい暮らしをしていますが、馬と武具はだいじにしています。鎌倉にもしものことがあれば、真っ先にかけつけるつもりです。」後に時頼が武士たちを鎌倉に集めたとき、真っ先にやってきたのは、そのときの主人でした。時頼はその主人に領地をあたえたといわれています。



「まとめる」の時間の4コマまんがで、鎌倉幕府と源頼朝について表せるといいね。



①元との戦い 元の兵士と戦う竹崎季長。どうして武士たちは、一所懸命に戦ったのでしょうか。

調べる

鎌倉幕府は、どのようにして元軍と戦い、その後は、どうなっていったのでしょうか。



②北条時宗と伝えられる肖像画

元の大軍がせめてくる 鎌倉幕府が開かれてから80年余りたったとき、元の大軍が2度わたり九州北部にせめてきました(元寇)。

中国を従えて大きな国をつくった元は、まわりの国も従えようとして、日本にも使者を何回も送ってきました。執権の北条時宗は、この要求を退け、九州の守りを固めました。

武士もびっくり 元が使った「てつほう」



③実物の「てつほう」 長い間海中にずんでいたものが見つかり、近年引きあげられました。

アジアからヨーロッパにまたがり、多くの国を支配したモンゴルでは、造船や兵器などに当時の世界最先端の技術が用いられていました。上の絵の中央で爆発している「てつほう」とよばれた火薬兵器は、当時の日本にはないもので、武士たちは大いにおどろきました。近年の研究の成果で、中に鉄片などがつまっていたことなどがわかってきました。



④モンゴルの広がり モンゴルは、元といくつかの国に分かれました。



⑤元軍の進路



⑥防塁跡(福岡市) 博多湾には、元寇のとき守りを固めるために築いた防塁の跡が残されています。



⑦守りに向かう武士たち 馬上の人物(中央)は、竹崎季長で、防塁には武士が多く見られます。

⑧海上の戦い 元の大船に、小船に乗って立ち向かう武士の様子です。



全国から集められた武士たちは、元軍の集団戦術や火薬兵器(てつほう)などに苦しみながら、恩賞を得るために必死に戦いました(一所懸命)。元軍は、武士たちの激しい抵抗や暴風雨などにより、大きな損害を受けて大陸に引きあげました。

しかし、幕府は、活やくした武士たちに新しい領地をあたえることができませんでした。また、武士たちは、役目を果たすための負担に苦しみ、生活に困る者もいて、幕府に不満をもつようになりました。

このことから、ご恩と奉公で結びついていた幕府と武士の関係がくずれていきました。

⑩恩賞を求める竹崎季長(右) 恩賞をもらえなかった竹崎季長は、鎌倉まで行き、幕府に直接うったえました。



⑨鷹島神崎遺跡で見つかった元軍の船体の一部(長崎県松浦市) 2012(平成24)年、海底遺跡として初の国史跡に指定されました。元軍の船材のほか、「てつほう」や刀などの武器も見つかっています。

ことば

一所懸命 領地は、武士にとって一族の生活がかかった大切なもので、武士は、命をかけて守りました。また、戦いの場で手がらを立てて恩賞を得るために、武士は命がけて働きました。

まとめる

学習問題について調べてきたことを年表を使って整理し、自分の考えを4コマまんがで表そう。



学習問題

武士の登場によって世の中は、どのように変わり、武士は、どのような政治を行っていったのでしょうか。

① 学習問題について調べてきたことを年表に整理しよう。

年	主なできごと	関係する人物
1159		平清盛
1167	平清盛が太政大臣になる	平清盛
1180	源頼朝が兵をあげる	
1184	一ノ谷の戦い	源義経
1185	屋島の戦い	源義経
	諸国に守護・地頭を置く	源頼朝
1189	頼朝が義経、奥州藤原氏をほろぼす	源頼朝、源義経
1192		源頼朝
1221	承久の乱	北条政子
1253	建長寺がつくられる	北条時頼
1274	元がせめてくる	北条時宗、竹崎季長
1281	また元がせめてくる	

② セリふを考えて、4コマまんがを完成させよう。

かまくらばくふ 鎌倉幕府と源頼朝

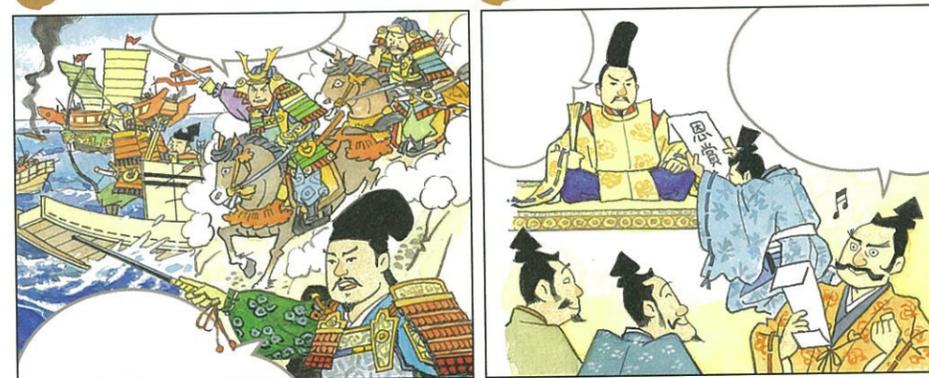
ことば

- 武士
- 征夷大將軍
- ご恩と奉公
- 一所懸命

ことばを活用して表せるといいね。



1 平氏に不平をいだける武士 2 頼朝が武士に語りかける

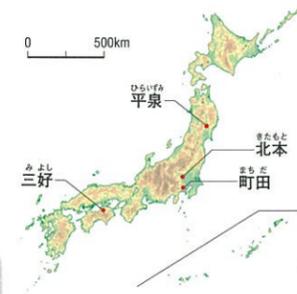


3 武士が頼朝の命令で戦う 4 頼朝が武士に恩賞をあたえる

ひろげる

各地に残る鎌倉時代のエピソード

こうきさんたちは、各地に残る鎌倉時代のエピソードを調べて、それぞれ発表しました。



へいし おちうど 平氏の落人伝説について調べました。

源平合戦では、敗れた平氏が四国や九州の山間などにいて、住み着いたという落人伝説があります。屋島の戦いに敗れた平国盛が住んだといわれる徳島県の祖谷には、「かずら橋」という草のつるでつくった橋があります。源氏軍が来たら、橋をすぐに切り落として、自分たちがうまくにげられるようにしたそうです。



① 現在のかずら橋 (徳島県三好市)



ひらいずみ 平泉と義経について調べました。

義経は、源平合戦でめざましい活躍をして、源氏を勝利に導きました。ところが、頼朝のゆるしがないうちに朝廷から官位を受けたため、いかりをかって鎌倉幕府に追われる立場になりました。全国をにげまわった末にたどり着いたのが平泉でした。源平合戦に参加する前に自分が過ごした場所へ帰って、奥州藤原氏をたよりました。しかし、頼朝の要求に応じた奥州藤原氏にせめられ、義経は自害しました。

② 義経堂にある義経像 (岩手県平泉町)

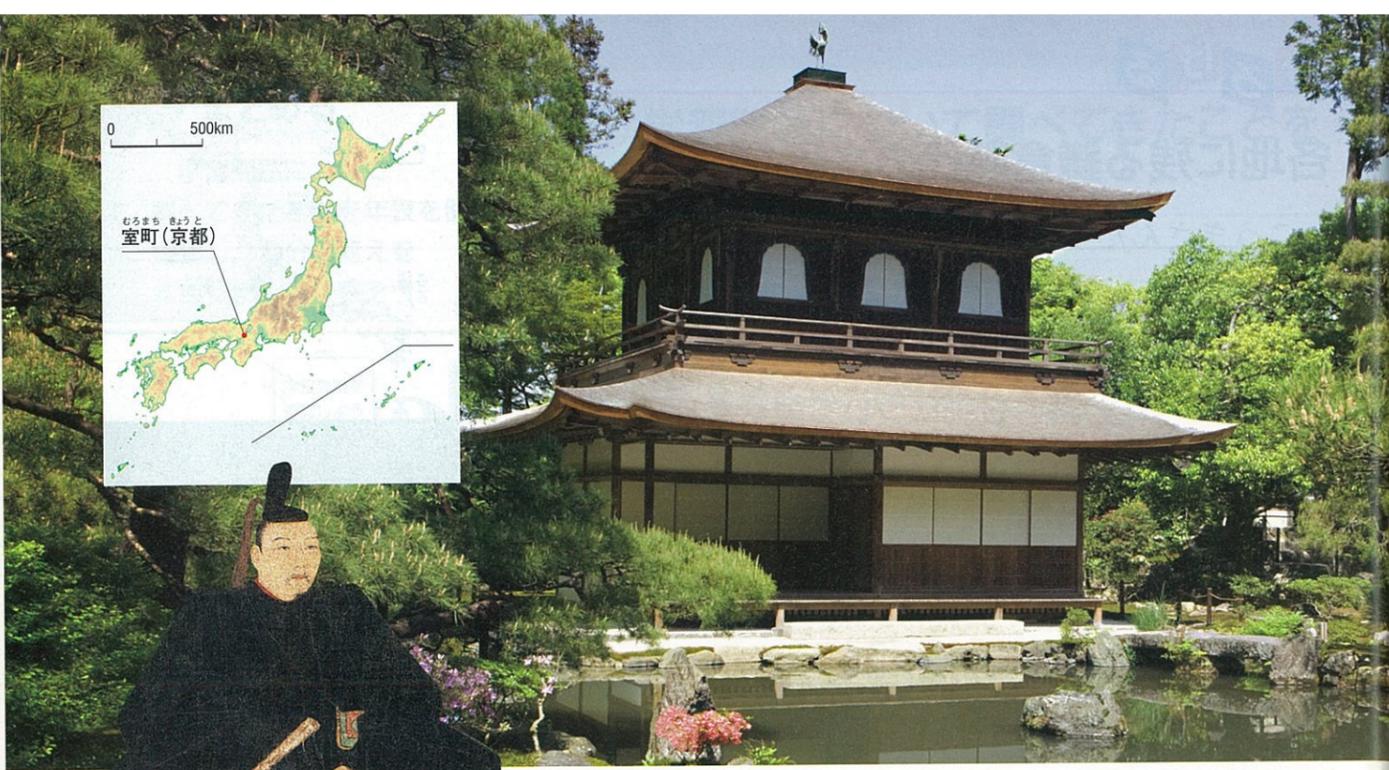


かいどう 鎌倉街道について調べました。

関東地方の各地には、鎌倉街道とよばれる古い道があります。武士たちが鎌倉と自分の領地を往復したり、人々が物資を運んだりしたときに使われた道です。鎌倉から遠いほど、見つけるのが難しいかもしれませんが、標識で表示されている場合があるので、鎌倉や関東のどこかへ行くときは、注意して見てください。

③ 鎌倉街道と書かれた標識 (埼玉県北本市) ④ 鎌倉街道と書かれた標識 (東京都町田市)





5 今に伝わる室町文化

つかむ

銀閣がどのような建物なのか話し合い、学習問題をつくりましょう。

③金閣(京都市, 世界文化遺産)と④足利義満 義満が将軍の時代には、はなやかな文化が栄えました。

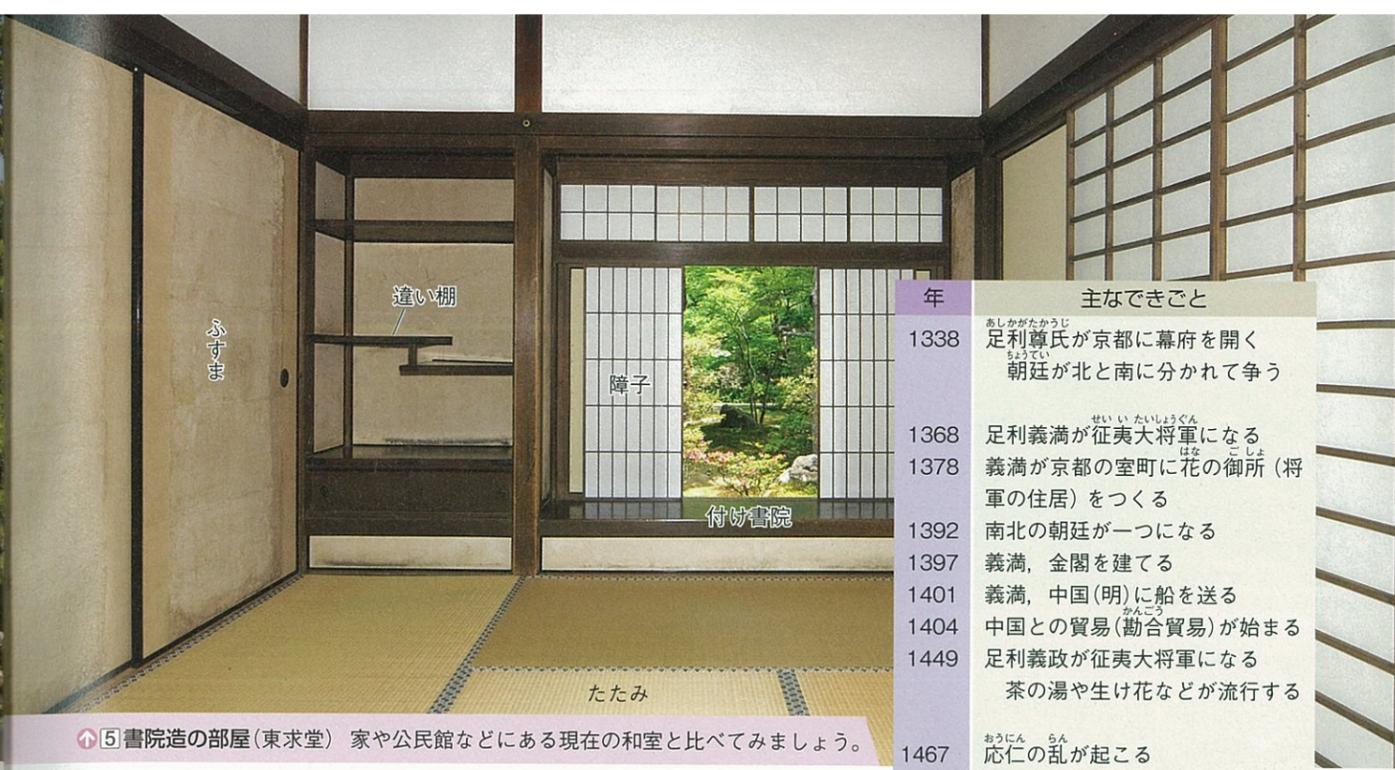


あしかがよしまさ 足利義政が建てた銀閣 14世紀中ごろに鎌倉幕府がたおれると、やがて足利氏が京都に室町幕府を開きました。3代将軍足利義満の時代には、幕府の力が最も強まり、義満は中国(明)と貿易を行うとともに、文化や芸術を保護しました。

現在の京都市には、室町時代の建物が多く残されています。ゆいさんたちは、8代将軍の足利義政が建てた銀閣やすぐ近くにある東求堂について気づいたことを話し合いました。

池と庭があるね。前に学習した貴族のやしきとも武士のやかたとも様子がちがうね。建物の中は、どうなっているのかな。

①銀閣(京都市, 世界文化遺産, 国宝)と②足利義政 義政が将軍の時代には、洗練された深みのある文化が栄えました。



⑤書院造の部屋(東求堂) 家や公民館などにある現在の和室と比べてみましょう。

銀閣の1階部分は、障子に囲まれて、現在の和室みたいになっているよ。

東求堂の部屋には、付け書院や違い棚があって、床にはたたみがしいてあるよ。板戸ではなく、障子やふすまで仕切られているんだね。

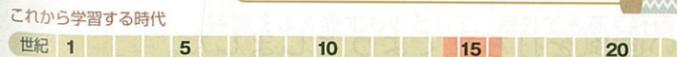
義満のころのはなやかさに比べて、義政のころは落ち着いた感じがするね。

こうしたつくりを書院造というそうだよ。ほかにも、どんな文化があったのか知りたいな。

学習問題

京都に幕府が置かれていたころの文化は、どのようなものだったのでしょうか。

巻末年表の1350~1550年ごろを見て、大まかな流れをつかみましょう。



年	主なできごと
1338	足利尊氏が京都に幕府を開く 朝廷が北と南に分かれて争う
1368	足利義満が征夷大将軍になる
1378	義満が京都の室町に花の御所(将軍の住居)をつくる
1392	南北の朝廷が一つになる
1397	義満、金閣を建てる
1401	義満、中国(明)に船を送る
1404	中国との貿易(勘合貿易)が始まる
1449	足利義政が征夷大将軍になる 茶の湯や生け花などが流行する
1467~1477	応仁の乱が起こる
1489	義政、銀閣を建てる

この時代の主なできごと

書院造 住宅の中で客をもてなすための専用の部屋のつくりとして発達しました。日本の文化に合ったつくりなので、長く受けつがれ、現在の和室につながっています。

文化

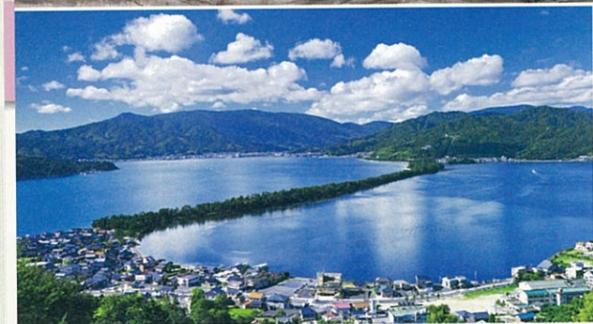
石と砂で世界を表す

~電安寺の石庭~

京都の電安寺には、枯山水という石と砂で山や水などを表す様式の石庭があります。庭づくりでは、身分のうえで差別されてきた人たちが活やくしました。室町時代につくられた数々の庭園は、今も人々の心をとらえ、季節ごとに多くの人がおとずれます。



⑦電安寺の石庭



②雪舟がえがいた天橋立の現在の様子(京都府) 天橋立(松島(宮城県)、宮島(広島県))の三つを日本三景といいます。

調べる

雪舟がえがいたすみ絵は、どのようなものだったのでしょうか。



③雪舟 周防などを支配していた武将の大内政弘と交流し、山口で多くの作品をえがきました。

①雪舟がえがいたすみ絵(天橋立図, 国宝)

鎌倉時代半ばに中国から伝えられたすみ絵(水墨画)は、室町時代になって雪舟が芸術として大成させました。

雪舟は、備中(岡山県)に生まれ、幼いうちに寺へ入り、絵に親しみました。そして、京都の寺ですみ絵を学んだ後、周防(山口県)に移り住みました。

さらに、雪舟は中国にわたり、約2年間、中国の各地で本格的な水墨画にふれ、研究を重ねながら絵のうでをみがきました。

中国でも絵の才能を認められた雪舟は、それまでの水墨画に独自の考えを加えて、新しい画風を打ち立てようとしていました。



④雪舟がえがいたすみ絵(四季花鳥図, 重要文化財)

中国から帰国した雪舟は、日本の自然の美しさ求めて、周防のほかにも豊後(大分県)や石見(島根県)などの各地をめぐる、大自然の雄大さをえがきました。国宝の「天橋立図」は、そのときの作品といわれています。

岩や山の輪郭をすどく、はっきりとえがき、すみをたっぷりふくませた筆で、すみのこい、うすいをぬり分けた画法は雪舟独特のもので、多くの絵師にえいきょうをあたえました。雪舟のすみ絵は、現在も多くの人々に親しまれています。

ほかにも、雪舟は各地に庭園をつくりました。中国の風景をもとに、むだなかざりがなく、力強さも感じるものになっています。

ことば

すみ絵 中国で生まれ、日本には禅宗(仏教一派)とともに伝えられたので、寺でさかんにえがわれました。独特の技法でえがかれた絵は、アジア文化の特徴をよく表すものとして、海外でも高く評価されています。

雪舟とねずみ

雪舟の絵の才能を伝える次のような話もつくられました。

雪舟は、宝福寺(岡山県総社市)で修行していましたが、あまり勉強しないで、絵ばかりかいていたため、和尚におこられ、本堂の柱にしぼりつけられました。

しばらくして和尚が行ってみると、雪舟の足もとにねずみがいました。和尚が追いはらおうとしましたが、ねずみは、動きません。よく見ると、雪舟が足の指を使って、なみだでかいたねずみでした。

和尚は、雪舟の絵の才能を認め、その後、絵をかくことを許しました。



⑤常栄寺(山口県山口市)の雪舟庭 大内政弘が、雪舟につくらせたものといわれています。



①茶の湯 茶会の席での作法なども、室町時代からしだいに形づくられていき、現在の茶道へとつながっています。



②生け花 室町時代からさかんになった生け花は、その後も発展し、現在ではさまざまな流派があります。

調べる

室町時代に生まれた文化には、ほかにどのようなものがあるのでしょうか。

③能 少ない人数で、役者の言葉と動きを中心に、道具などをほとんど使わずに演じられます。

文化

守り伝えるべきもの

～無形文化遺産～

能と狂言をあわせて能楽とよびますが、能楽は人々が守り伝えていくべき貴重な宝として、国内では重要無形文化財に指定され、国際的にも無形文化遺産として認められています。無形文化遺産は、ユネスコ(国連教育科学文化機関)が決定するもので、日本ではほかに、人形浄瑠璃文楽や歌舞伎などが登録されています。

④国連本部で行われた狂言の公演



むろまち **室町文化と現在とのつながり** 室町時代に生まれた文化は、ほかにもたくさんあります。日本の伝統芸能である能は、足利義満の保護を受けた観阿弥・世阿弥の父子によって、大成されました。また、狂言は、民衆の生活などを題材に、せりふも日常の会話を用いて、民衆の間に広まりました。

ことば

能・狂言 奈良時代ごろに大陸から伝わった芸能が、やがて猿楽となり、民衆に広まっていた田楽を取り入れて発展しました。猿楽の歌や舞は能として、こっけいな物まねは狂言として、それぞれ確立していきます。



⑤御伽草子 現在でも知られている話も多くあります。写真は「ものぐさ太郎」です。

生活面では、1日3回食事をする習慣が起ってきました。うどん、とうふ、こんにやく、納豆などが人々の間に広まり、しょうゆや砂糖も使われるようになりました。お茶を飲む風習も広まり、静かにお茶を楽しむための茶室もつくられるようになりました。書院造の床の間をかざるために生け花もさかんになりました。

さらに、室町時代は、農業の生産力が上がり、都市を中心に商業やさまざまな工業もさかんになりました。お祭りやぼんおどりなども各地で行われ、民衆の力が高まっていきました。

それにつれて、京都の武士を中心に生まれた文化は、商人や庶民の間にも広がり、各地で受けつがれていきました。

まとめる

学習問題について調べてきたことを整理し、ことばを使って自分の考えをノートに書きましょう。



学習問題は、「京都に幕府が置かれていたところの文化は、どのようなものだったのでしょうか。」だったね。

ことば

- 書院造
- すみ絵
- 能・狂言

地方への文化の広まり

室町時代、有力な武将たちは大名とよばれ、将軍に仕えるために京都で生活するようになりました。京都を中心に生まれた室町時代の文化は、こうした大名やその家来、旅の僧などによって、地方へと広がっていきました。

また、将軍義政のころに応仁の乱という大きな戦いが京都で起き、

多くの文化人が戦いをさけて地方の都市へ行ったために、そうした都市では大いに文化が栄えました。



⑥足利学校(栃木県足利市)

学問もさかんになり、僧たちが漢学(中国の学問)を学んだ足利学校には、全国から学生が集まりました。

現在とつながりの深い室町文化

足利氏が京都の室町に幕府を置いたところに生まれた文化には、現在とつながりの深いものがある。例えば、足利義政が銀閣や東求堂をつくったが、「書院造」とよばれる様式は、現在の和室によく似ている。また、雪舟が残した「すみ絵」の作品は、今も多くの人たちに親しまれている。長く受けつがれてきた文化をほこりに思う。

むろまち
室町文化を体験して
レポートを書こう。



1 茶室に入る

にじり口とよばれる小さな入り口から身をかがめて入ります。すべての人が、みな同じ立場になるという考え方にもとづきます。



2 おかしをいただく

あいさつをした後、初めにおかしをいただきます。おかしは、懐紙とよばれる紙の上を取っていただきます。



3 お茶を楽しむ

まず右手で茶わんを取り、左手の上ののせてあいさつをします。そして、茶わんを時計回りに回してからいただきます。味だけでなく、茶わんの美しさやお茶の色、かおりも楽しめます。

まなび方コーナー

レポートを書く

茶の湯体験レポートを書く

【レポートの形式を決める】

- レポートで書く内容を事前に整理して、それぞれに見出しをつける。
- その中でも特に中心となるものを決める。

【レポートを書き始める】

- わかりやすくするために写真や図を用いる。
- 調べたことと、自分の感想や考えなどは、区別して書く。

レポートを書くときに、**ことば**を活用するといいね。



茶の湯の体験

6年1組 加藤こうき



1. 茶会の場所と参加メンバー

- ・ 場所：永野さん宅の茶室
- ・ メンバー：永野さん（主人）、木村、鈴木、川上、加藤

2. 永野さんに教わったこと

- ・ お花、お茶わん、すみ絵、書院造の部屋など、さまざまな文化と関係が深い。
- ・ 礼儀作法をととても大切にしている。

3. 体験をした感想

書院造の部屋で、床の間にかざってあるかけじくや生け花を楽しみながらお茶をいただくと、まるで500年前の世界にいるような気持ちになりました。ちょっときんちょうしたけれど、心に残る体験でした。

4. さらに調べてみたいこと

- ・ 茶の湯の歴史について

きょうと ぎ おんさいれい す びょう ぶ
室町時代の京都の祭り— 祇園祭礼図屏風



これはどうい屏風かな

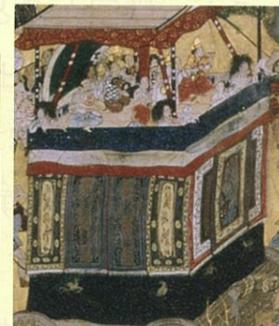
京都の祇園社（八坂神社）と近江（滋賀県）坂本の日吉山王社の祭りを対にした屏風で、16世紀中ごろに土佐光茂という絵師がえがいたと考えられています。当時の祭礼をえがいたものでは、群をぬいて精密です。



今に伝わる文化

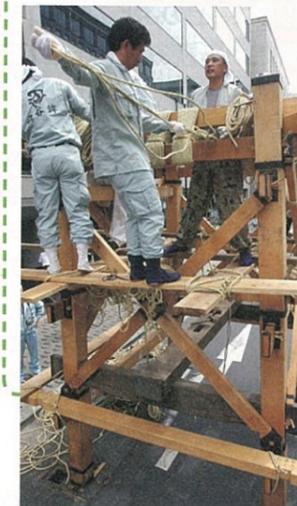


じっくり見よう



① いろいろな人が見物に来ています。

② かざりには海をこえて伝ったアジアのじゅうたんも。



③ 現在の長刀鉾上には人が乗り、おはやしを行います。着かざった稚児さんも乗っています。

④ 鉾建ての様子くぎを一切使わずに、なわなどで鉾を組み立てます。